

糸満市地域公共交通会議 令和元年度第3回会議 議事録

【開催日時】:令和2年1月21日(火)15:00～17:00

【開催場所】:糸満市役所 3-C 会議室

【出席者】:26名(別紙1 糸満市地域公共交通会議委員 名簿)

I. 活性化再生法に基づく法定協議会

■会議の位置付けと今後の進め方

※事務局より、会議の位置付けと今後の進め方について説明された

【大城会長】本内容について確認事項や質問等はあるか。

【委員一同】問題無し。

報告事項(1) 第2回会議議事要旨

■第2回会議議事要旨について

※事務局より、糸満市地域公共交通会議令和元年度第2回会議の議事内容について報告された

【大城会長】本内容について確認事項や質問等はあるか。

【委員一同】問題無し。

報告事項(2) 幹事会開催報告

■計画目標の設定、具体的な施策事業の検討に向けた第2回幹事会の総括について

※事務局より、計画目標の設定、具体的な施策事業の検討に向けた第2回幹事会の開催概要について報告された

【島田副会長】幹事会では、糸満市の各課の課長を主体に観光協会等の関係団体と共に実質的な案を作成するために議論している。前回の議題として事業実施時の評価指標を議論した。なお、前回の幹事会では全ての評価指標の結論は出なかったため、半分程度は宿題として各部に持ち帰ってもらった。ここ数年、行政でKPI(重要業績評価指標)という言葉が使われてきたが、何をどこまで実施するかという点が議論の肝の部分である。なお、評価指標はその内容について幹事会後に私も事前に説明を受け、議論した上でとりまとめられた評価指標(案)になっている。第1回の幹事会では方向性を確認し、第2回に具体的な事業と目標が示されたため、その内容を本日の委員会では議論して頂くことになる。

【大城会長】本内容について確認事項や質問等はあるか。

【委員一同】問題無し。

審議事項(1) 糸満市地域公共交通網形成計画(素案)

【大城会長】糸満市の公共交通の現状や課題に対して、新しい公共交通網を形成するにあたり、コミュニティバス、デマンドバス、路線バス、直行バス、ブーゲンビレア号等の役割(どのルートでど

のような利用者を想定しているのか等)はどうなっているのか。また、新公共交通ターミナルはどのような施設で、どういう機能・役割を期待しているのか、資料4の目次1-3と1-4を中心にもう一度わかりやすい言葉で説明してほしい。

【事務局】短期的な課題としては都市間連携で那覇市との連携が弱いことが挙げられる。国道256号を通る路線はあるが、国道331号を通る路線が無く、バスで那覇市へ短時間でいけない、空港との結びつきが弱いという状況である。長期的な課題として、定時定速で運行する軌道系交通が市民から求められており、市の将来的な発展を考慮しても軌道系交通が必要であると考えられる。なお、島尻地域振興開発推進協議会の会議において、モノレールを想定しており、モノレール奥武山駅を結ぶ路線案について話し合っている。どのような形が最適であるかは今後調整が必要であるが、糸満市として軌道系交通は必要であると考えているため、検討を進めて行く。

【大城会長】現在のいとちゃん mini の課題はどのようなことが挙げられるのか。また、その課題をどのように解消しようと考えているのか教えてほしい。

【事務局】いとちゃん mini の課題としては、需要が増えており、予約が取れない状況であり対応困難になっていることが挙げられる。なお、現状の体制ではどんなに需要が増えても収支率は20%前後が限界となり、車両台数を増やしても行政の財政負担が増えるため持続可能性が問われる。もう一つの課題として、運行時間が通勤・通学の時間に合っていないことが挙げられる。課題解決策としては、いとちゃん mini の1年半の運行データを分析すると、利用者の移動は分散しているが、その中でも集中している場所や施設が見えてきている。デマンドでは車両1台に1~2人の利用者となっていたものが、移動の集中するルートを路線化して集約化出来れば、車両1台に5~6人乗車可能となり、増えて行く需要に対応できるのではないかと考えている。まとめると、コミュニティバスとの組み合わせにより効率化を図り、市民の利便性を上げて持続可能な体制を整えて行ければと考えている。

【大城会長】ポイント間を往復するようなコミュニティバスを考えているということであるのか。

【事務局】その可能性を検討したい。

【大城会長】デマンドバスについてはどのようなことを考えているのか。

【事務局】コミュニティバスでは全ての需要をカバーできると思っていないため、デマンドバスも残して、現状の試験運行ではなく本格運行したいと考えている。

【大城会長】デマンドバスというものは、いとちゃん mini のデマンド交通という理解でよいのか。

【事務局】いとちゃん mini という理解でよい。

【大城会長】新公共交通ターミナルについて説明してほしい。

【事務局】新公共交通ターミナルについては糸満市として真栄里地区の区画整理事業地内を検討している。

【大城会長】新公共交通ターミナルの機能について、説明資料には市民駐車場やレンタカーステーション、バスターミナル、バス駐機場等、様々な役割が描かれているが、どのような機能を果たすのか説明してほしい。

【事務局】先ず、新公共交通ターミナルを真栄里地区に計画している理由として、既存の糸満ロータリー近くのバスターミナルの老朽化が挙げられる。さらに、既存のバスターミナルが国道331号の

バイパス橋梁の下側に位置しているため、バイパスを上手く活用できていないことが挙げられる。その他に、糸満市内にはロータリー近くのバスターミナルの他に路線バスの営業所が1ヶ所あり、拠点が分散している。そこで、バイパスに対応できる場所に拠点を集約して新しい拠点とすることを考えている。新公共交通ターミナルの機能としては、市内から空港の移動の乗り継ぎや周辺地域からの乗り継ぎ拠点となるハブ機能を期待している。そのため、市民駐車場を計画している。また、空港からの直行バスも想定しているため、レンタカーステーションを計画している。その他、観光客の需要も考えられることから、サイクリングターミナルも計画している。なお、新公共交通ターミナルについては移動の中継地だけでなく目的地となるよう、人が多く集まるような多機能型な施設を目指している。

【小谷委員】新公共交通ターミナルに行くまでに、各集落に集約する機能が必要であると思うが、各拠点集落は既に整備されているのか、それとも、これから整備するのか教えてほしい。

【事務局】将来ネットワークの形成イメージであり、現時点では主要集落の主要バス停は無く、計画段階である。79Pの都市マスタープランと連動した将来ネットワーク形成イメージで説明すると、緑色で示した周辺集落の方々に対しては、拠点集落への移動手段を整備する必要がある。なお、具体的な移動手段については、タクシー又はデマンドバス、自転車等、様々な選択肢はあるが現在検討中である。さらに、オレンジの拠点集落から新公共交通ターミナルへ段階的に移動できるように整備を進めることを計画している。なお、拠点集落から新公共交通ターミナルへの移動手段については、路線バスやコミュニティバスが考えられるが、役割を明確にした上で、地域間連携を整理する必要があると考えている。なお、新公共交通ターミナルからの那覇市や周辺市町村への移動手段については、都市間連携として、現状、路線バスに役割を担ってもらうが今後、需要が多くなる場合、新しい交通モードを検討して行く必要がある。公共交通のモードと役割を改めて整理することが将来ネットワークに必要なことである。

【小谷委員】集落のバス停の整備計画がどこにも示されていないため、整備計画のイメージがあれば資料に反映させてはどうかと思う。

【大城会長】イメージとして生活拠点のバス停としては、どのようなバス停が該当するのか。

【事務局】現在、三和地区及び高嶺地区には南部循環線のバス停があり、市街地を通る路線バスについては全て小学校前や公共施設を通る。なお、糸満市では高嶺地区に小中一貫校の建設計画を進めていることもあり、真栄里の新公共交通ターミナルから全ての小中学校へ行けるようなイメージを持っている。

【小橋川委員】大きな路線の再編が令和3年度と6年度にあるようであるが、路線バスの場合、一度バスの路線を設定して運行に至るとバス利用者が定着し、利用者のいるコースを簡単には変更することは出来ないため、令和3年度の再編時においては、新公共交通ターミナルや拠点集落の計画も考慮してバス路線・コミュニティバスを検討して頂きたい。

【三宅委員】資料4の65Pの取組の方向性～具体的な事業に関して、検討することと実施することが混在して記載されている。検討は事業とは言えないのでは。

【事務局】わかりやすい表記とするよう検討する。

【屋富祖委員】資料4の64Pの計画目標について、市職員の公共交通通勤者数の令和6年度目標20人／年はどのような方法で実施するのか教えてほしい。なお、目標達成のために1日／月など、ノ

ーマイカーデーの設定や事例で挙げられた健康ポイントも良いと考える。

【事務局】市職員のノーマイカーデーについては、昨年まで1回／年実施している。また、昨年度、7月より市職員駐車場の利用を廃止したため、徒歩や自転車通勤者等が増加している。今後、担当部署とも連携し、ノーマイカーデーの設定等を進めて行きたい。なお、市職員の公共交通の利用について、マイカー通勤者がバス通勤に転換するにも、市役所周辺ではバス路線の本数が少ない現状にある。令和3及び6年のバス路線再編において、コミュニティバスや那覇からの直行バス等、市の職員も利用しやすい路線についても検討し、公共交通利用者を増やして行きたい。

【慶田委員】ブーゲンビレア号の協力事業者が、現在、南部病院と糸満自動車学校の2事業者に減少してしまい持続が懸念されるということであるが、令和6年度の目標値として協力事業者を3事業者と設定している。現状として、撤退された西崎病院を含めて、協力して頂ける事業者はあるのか。

【事務局】担当課に確認したところ、現在協力事業者となっている2事業者については継続して協力頂ける意向があると聞いている。目標値として3事業者と記載しているが、現在、具体的にもう1事業者が決まっている訳ではなく、高齢者の移動手段を守るために、事業者を増やしたいということで、目標としている。

【慶田委員】ブーゲンビレア号の協力を引き受けてくれるような事業者は糸満市にあるか。

【事務局】相談できるか検討している事業者はある。

【島田副会長】地域主体の交通支援制度の導入について、空港直行バスやデマンドバス、コミュニティバスといった移動手段がある中で、地域主体の交通とはどのようなイメージであるのか。また、軌道系交通の計画について関係団体の係りをもう少し教えてほしい。もう一点として、ノーマイカーデーについては、踏み込んで実施してほしい。

【事務局】糸満市で空港直行バスやデマンドバス、コミュニティバス、路線バスの再編等を計画しているが、これらの方法で全ての地域の需要に今後継続的に対応できるのか不透明である。そこで、資料4の88～89Pの事例に掲載しているように、それぞれの地域の需要にあった交通モードが設定できるのではないかとことから、将来の可能性として市で支援して行くことを検討する必要があるため、地域主体の交通支援制度の導入としている。なお、具体的な方法はまだ検討中である。軌道系については、島尻地域振興開発推進協議会の南部地域の公共交通の会議で調査検討を進めてきたが、会議参加者は島尻地域振興開発推進協議会と那覇市、浦添市、西原町であり、沖縄県は参加していないため、次年度は南部広域の市町村会に事務を依頼し、来月の会議にて承認が得られたら、国・県も含めて検討を行う予定である。本資料中の記載において現在は関係団体が未確定であるため、白丸での記載となっている。また、ノーマイカーデーについては、市職員が率先して実施したい。

【慶田委員】東京の貸切バス事業者がこの1月に沖縄に事務所を開業しており、その会社はいつでもバスの増車が可能ということであり、将来的には路線バスに参入したいと考えているようである。路線バスとして糸満から空港までの直行バスを検討しており、その先に、うみそらトンネルを通過して県庁前まで運行することも見据えている。そのような話がバス協会に寄せられたが、バス協会としては既存の路線バス事業もいるため、対応に頭を抱えている状況である。糸満市にも当該

事業者よりより空港直行バスの話題が来ていると思われるが、新規事業者が空港直行バスを運行したいと言った場合、網形成計画の事業計画に盛り込むことになるのか、もしくは、事業者独自に任せるのか糸満市としての意見を聞かせてほしい。

【事務局】東京のバス事業者から、具体的な提案はまだ受けていない。なお、空港直行バスの計画は、東京のバス事業者からの意見があって計画を盛り込んでいる訳ではなく、以前より市では幹線のバス運行の構想を持っている。その運営を市で行うのか、民営とするのかについては、事業者より提案があった場合、糸満市の計画とも照らし合わせて検討する。

【仲里委員】電動ゴルフカート等は運転するにあたり 2 種免許を必要とせず、一般道を 20km/h で走行できる移動手段である。さらに電気であれば燃料代や CO₂ も削減できると考えられる。なお、バス乗務員の人材は募集してもなかなか集まらないため、20km/h 程度の車両であればシルバー人材のお年寄りに依頼する等、市職員駐車場からバス駐機場等の近距離の移動手段として検討することはできないか。

【事務局】現状として、旧ボーリング場を糸満市の職員駐車場としているが、役所までの距離が 1.2km 程度あるため、電動カートの様な移動手段があれば良いと考える。なお、電動カートについては市の職員の移動手段だけでなく観光客の移動手段としても喜ばれると思う。道の駅やホテル等の観光施設の移動手段として、糸満市の景色や自然を楽しみながら移動できるよう、観光協会を中心に観光部署とも調整の上検討を進めて行きたい。

【慶田委員】資料 4 の 65P について、沖縄県では高校生一人親家庭の通学費サポートの事業を実施しているが、新たに県の教育庁が非課税世帯を含めた支援策を来年度検討しており、予算が通れば 9 月から実施予定ということになると思う。なお、高校生一人親家庭の通学費サポートの事業も引き続き実施することを計画している。糸満市のこの計画はいつ策定予定となるのか。

【事務局】計画は 3 月に固めたいと考えている。なお、沖縄県の実施している高校生一人親家庭の通学費サポート事業については、本資料にはあくまでも一事例として掲載しているだけであり、現在の計画の文言で、県の事業の住民税の非課税世帯への支援事業も含まれるという認識である。

【小橋川委員】資料 4 の 64P の評価方法について、路線バスについては、赤字補填の金額を減額としているが、補助額だけではなく他の評価方法も検討しないといけないのではないかなと思う。

【事務局】赤字補填額の他に設定できるものがあるかどうか等、相談させて顶きたい。

【大城会長】パブリックコメントについて、資料 4 の様な冊子ではなく、1 枚程度で概要版としてまとめてパブリックコメントを実施してはどうかと考えるが如何であるか。

【事務局】概要版としてまとめるよう調整する。

【大城会長】パブリックコメントについて、1 枚程度で概要版としてまとめて実施するという方法でよろしいか。

【委員一同】異議無し。

【事務局】小谷委員からのネットワーク整備において拠点集落が整備されているのかという質問への追加回答として、資料 4 の 93P で事業の位置付けを説明する。「3 まちづくりと整合性のとれた公共交通の形成と活性化」の「(2) まちづくりと整合性のとれた公共交通網を形成する」の「①都市整備事業（シンボルロード整備、小さな拠点創出）と連動した交通結節点の整備」という部

分で整備したいと考えている。その他、「3 の (3) の①都市マスタープラン等の関連計画と整合のとれた公共交通の整備」というところで、他の施策と連動した整備を計画している。

その他連絡事項等

【事務局】次回の会議は 2/18 の 15 時より本会議室にて実施する予定である。なお、本会議とは別に、次回の幹事会を 2/5 に本市 4 階会議室にて予定しており、正式な依頼はこれからであるが沖縄総合事務局運輸部企画室の三宅室長に講話をしてもらうことを計画している。16 時頃より三宅室長の講和を実施予定であるため、都合の良い方は是非参加して頂きたい。委員の皆様には改めて案内を送付する。



写真：会議開催状況

■第3回糸満市地域公共交通会議 参加者名簿

別紙－1

		氏名	区分	所属	役職	備考
1	会長	大城 郁寛	学識経験者	琉球大学国際地域創造学部	教授	
2	副会長	島田 勝也	学識経験者	沖縄大学地域研究所	特別研究員	
3		小橋川 共隆	一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	株式会社琉球バス交通	統計課課長	
4		大城 幸和	一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	那覇バス株式会社	業務部部長	欠席
5		名嘉山 敬雄	一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	沖縄バス株式会社	運輸部業務課長	
6		大城 盈	一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	ラッキー交通合名会社	専務	
7		慶田 佳春	一般乗合旅客自動車運送事業者及びその団体	一般社団法人沖縄県バス協会	専務理事	
8		仲里 隆	一般貸切旅客自動車運送事業者及びその団体	有限会社美ら島	代表取締役	
9		源河 浩次	一般貸切旅客自動車運送事業者及びその団体	結株式会社	代表取締役社長	
10		喜屋武 悟	一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体	私鉄沖縄県労働組合連合会	執行委員長	
11		屋嘉比 康人	地域代表者	真栄里自治会	会長	
12		玉城 善治	地域代表者	真壁自治会	会長	
13		徳元 孝進	地域代表者	糸満市老人クラブ連合会代表	糸満市社会福祉協議会会長	
14		屋富祖 民江	地域代表者	糸満市女性連合会	代表	
15		杉本 龍	地域代表者	糸満市 PTA 連合会	会長	欠席
16		久保田 徹	観光関係者	糸満市観光協会	会長	
17		松浦 快奏	産業界関係者	糸満工業団地協同組合	理事長	欠席
18		玉城 春一	産業界関係者	糸満市商工会	会長	欠席
19		三宅 亮	運輸支局	沖縄総合事務局	運輸部企画室長	
20		小谷 和史	運輸支局	沖縄総合事務局	運輸部 陸上交通課長	
21		川崎 聡	道路管理者	沖縄総合事務局	南部国道事務所副所長	
22		新本 陽一郎	都道府県警察	沖縄県 糸満警察署	交通課長	
23		宮城 優	地方公共団体	沖縄県 企画部	交通政策課長	
24		金城 靖	地方公共団体	糸満市	副市長	
25		徳里 仁	地方公共団体・道路管理者	糸満市	建設部長	
26		福元 信美	地方公共団体	糸満市	市民健康部長	
27		徳元 弘明	地方公共団体	糸満市	企画開発部長	
28		大城 拡	地方公共団体	糸満市	経済観光部長	
29		山城 安子	地方公共団体	糸満市	福祉部長	
30		阿波根 庸伸	地方公共団体	糸満市	教育委員会総務部長	

事務局		
1	新垣 行則	糸満市企画開発部 政策推進課 課長
2	大嶺 哲也	糸満市企画開発部 政策推進課 係長
3	新垣 祐滋	糸満市企画開発部 政策推進課
4	玉城 喜章	沖縄しまたて協会
5	上間 淳也	沖縄しまたて協会
6	豊里 博輝	沖縄しまたて協会
7	仲宗根 安弘	沖縄しまたて協会
	計 7 名	

傍聴人		
1	金城 守	沖縄総合事務局運輸部 陸上交通課 課長補佐
2	仲間 洋之	沖縄県企画部 交通政策課
3	上原 斉	糸満市市民健康部 市民生活環境課 課長
	計 3 名	